

日本資本主義の成立 I

双書 日本における資本主義の発達 1

梶西光速・加藤俊彦
大島 清・大内 力

東京大学出版会

日本資本主義の成立 I

双書 日本における資本主義の発達 1

梶西光速・加藤俊彦
大島 清・大内 力

東京大学出版会

日本資本主義の成立 I

1954年11月25日 初 版

1984年3月10日 2版11刷

© 著 者 かじにしみつはや かとうとしひこ
楫西光速・加藤俊彦
おおしま きよし おおうち つとむ
大島 清・大内 力
発行者 江 村 稔

発行所 財団法人 東京大学出版会

113東京都文京区本郷東大構内 電話(811)8814 振替東京6-59964

三秀舎印刷・新栄社製本

44115

ISBN4-13-044011-X

はしがき

われわれがかつて、「日本における資本主義の發達」を書いたときには、その序文でもことわっておいたように、幕末から明治維新、さらに第一次大戦までの、いわば産業資本の生成・發展の時期についてはきわめて簡単にしかふれなかった。その時期についてはすでに多くの分析がおこなわれているので、むしろ重點をそれ以後の時代におくこととしたのであった。

しかし、幕末から明治にかけてのこの時期は、周知のように、きわめて多くの問題をふくみ論議もしたがってさかんな時期であるから、ここを簡単にすごしてしまうのではなしに、むしろじゅうぶんに議論を展開するよう、各方面から要望された。と同時に、前著で比較的くわしく取扱った第一次大戦後の時期についても、なお考究すべき多くの點がのこされていることが見いだされた。なお、かねてから前著とは一應別に、まず明治維新を中心とした日本資本主義成立期の分析からはじめて、最近に至るまでの日本の資本主義の發達をそれに關連したいろいろな見解を批判しつつ、分析する必要のあることを痛感していた。しかし、何分にも四人が同時に執筆することが望ましいにもかかわらず、おのおのが多忙な仕事をかかえている身なのでそのような機會を見出すことがなかなかむずかしいままに、いたずらに時日を経過したが、よ

うやくこの夏にいたってそのはじめの部分だけをとりまとめる機会をもつことができた。本書はそのいみで、今後に豫定されている大きな計畫の端緒をなすものであるが、しかし同時にこれだけで獨立の明治維新史論ともなりうると考えられるし、同時に前著の補充のいみをもつものである。前著と同様に、日本資本主義の研究に興味をもたれる學生諸君その他の研究者の伴侶となりうればさいわいこれに過ぐることはない。

なお、東大出版會の石井和夫君は、共同執筆にともなう煩雜な事務や、細部の統一の仕事などを一手にひきうけてくれた。本書はこのいみで石井君に負うところがきわめて多いので、厚く感謝の意を表する。

一九五四年一月一日

著 者

目次

はしがき

第一章 封建社會の崩壊 一

第一節 概観 一

第二節 商品流通の擴大 一

商品流通擴大の前提——商品經濟の發展——貨幣制度の發達——專賣制度の發展——商人・高利貸資本の發展

第三節 商業的農業の展開と農民層の分解 四

徳川初期の農村および農業——商業的農業の展開——農民層の分解——地主制の本質

第四節 農村工業の發展 九

農村工業の形成——綿業——絹業——その他の諸工業——藩營諸工業——幕末の經濟段階

第五節 開港・貿易とその影響……………二八

開港・貿易への過程——幕末貿易の諸状態——開港・貿易の一般的影响

——商品流通機構の改革と幕府の貿易政策——金流出と物價騰貴——下級武士の窮乏化と攘夷運動

第六節 百姓一揆・打ちこわし……………一五

農民闘争の諸形態——一七二〇・三〇年代の昂揚——一七八〇年代の昂揚——幕末の昂揚（一八三〇年代、一八六六年）——一揆と下級武士

第二章 明治維新……………一七

第一節 明治維新の必然性……………一七

變革の諸要因——明治維新の擔い手——海外からの壓力と幕府の動搖——攘夷と開國（一）——攘夷と開國（二）——政治的經過

第二節 明治維新の本質……………一九

問題——ブルジョア革命——絶對王政——「明治維新」論——「天皇制」論

双書 日本における資本主義の発達・総目次

日本資本主義の成立 I

はしがき

第1章 封建社会の崩壊	1
第1節 概 観	1
第2節 商品流通の拡大	15
商品流通拡大の前提／商品経済の発展／貨幣制度 の発達／専売制度の発展／商人・高利貸資本の発 展	
第3節 商業的農業の展開と農民層の分解	46
徳川初期の農村および農業／商業的農業の展開／ 農民層の分解／地主制の本質	
第4節 農村工業の発展	90
農村工業の形成／綿業／絹業／その他の諸工業／ 藩営諸工業／幕末の経済段階	
第5節 開港・貿易とその影響	128
開港・貿易への過程／幕末貿易の諸状態／開港・ 貿易の一般的影響／商品流通機構の改革と幕府の 貿易政策／金流出と物価騰貴／下級武士の窮乏化 と攘夷運動	
第6節 百姓一揆・打ちこわし	155
農民闘争の諸形態／1720・30年代の昂揚／1780 年代の昂揚／幕末の昂揚(1830年代, 1866年)／一 揆と下級武士	
第2章 明治維新	175
第1節 明治維新の必然性	175
変革の諸要因／明治維新の担い手／海外からの圧 力と幕府の動揺／攘夷と開国(1)／攘夷と開国 (2)／政治的経過	
第2節 明治維新の本質	197
問題／ブルジョア革命／絶対王政／「明治維新」 論／「天皇制」論	
日本資本主義の成立 II	
第3章 資本の原始的蓄積	263

第1節	概 観	263
第2節	地 租 改 正	274
	明治維新草創期の財政／地租改正の経過／地租改正の内容／地租改正の本質	
第3節	秩禄処分と士族授産	329
	秩禄処分／士族授産	
第4節	殖 産 興 業	347
	A 資金の創出 殖産興業と資金／不換紙幣の発行と貸付金／信用制度の整備	
	B 産業の育成 官営事業／官営事業の払いさげ／私的企業の保護育成／近代産業の形成	
第5節	インフレーションと紙幣整理	412
	西南戦争を契機とするインフレーションの進行／紙幣整理の経過	
第6節	農民層の分解	441
	商品経済の農村への滲透／農民層の分解／地主制の発展	
第7節	自由民権運動	495
	明治初年の一揆／自由民権運動(1) 1877年ころまで／自由民権運動(2) 1881年ころまで／自由民権運動(3) 1882年ころから	

日本資本主義の発展 I

第1章	産業資本の確立	1
第1節	概 観	1
第2節	1890年の恐慌	16
	恐慌の原因／恐慌の勃発と経過	
第3節	産 業 革 命	31
	産業革命の進展／産業革命についての諸見解	
第4節	貿易の発展	61
	維新後の外国貿易の大勢／貿易内容の変化(1)／貿易内容の変化(2)／条約改正と関税	
第5節	農業および農民の状態	80
	資本主義的産業の発展と農業／商業的農業の深化／農業技術の発達による生産力の増大／農民層の分解と地主制の発展	
第6節	労働者の状態と労働運動	119

生成期の賃労働／産業資本確立期の賃労働

第7節	近代財政の成立と信用制度の整備	144
	近代財政の成立／信用制度の整備と発展	
第8節	日清戦争の歴史的意義	190
	日清戦争についての歴史的規定づけ／戦争への政治的過程／戦争の経過と戦費の調達	

日本資本主義の発展 II

第2章	産業資本の展開	211
第1節	概観	211
第2節	日清戦後の諸恐慌	223
	戦後景気の昂揚と小波乱／1897—98年の反動／1900—01年の恐慌	
第3節	重工業の展開と独占の萌芽	253
	日露戦争前後の産業の発展／重工業の展開／軽工業の発展／鉱業の発達／交通運輸業	
第4節	貿易の発展	278
	関税自主権の確立／貿易発展の内容／貿易市場の変化	
第5節	軍事財政の発展	292
	軍事財政の発展／日露戦争財政／日露戦後の財政／外資導入	
第6節	特殊金融機関の整備	323
	特殊銀行の諸活動／普通銀行の発展と集中	
第7節	農業政策の積極化	357
	農村経済の商品経済化の完了／農民層の動向と地主の変質／農業政策の積極化	
第8節	社会主義運動の発展と分裂	400
	社会主義協会と平民社の活動／労働争議の昂揚／日本社会党とその解散—直接行動主義の提唱／「赤旗事件」と「大逆事件」	
第9節	日露戦争の歴史的意義	423
	日露戦争の必然性／日露戦争とその結果／日露戦争の本質	

日本資本主義の発展 III

第3章 独占資本の形成	461
第1節 概 観	461
第2節 1907—08年の恐慌と不況の慢性化	476
日露戦後の好況／恐慌の勃発および経過／不況の慢性化傾向	
第3節 大戦による好景気と産業の飛躍的發展	500
大戦による好景気／産業企業の發展	
第4節 貿易の發展と金融	525
貿易の發展／貿易金融の發展と日本銀行／手形市場／銀行資本の動向／特殊銀行／植民地銀行	
第5節 帝国主義的進出と資本輸出	558
日韓併合と朝鮮經營／21ヵ条の要求／シベリア出兵／資本輸出(1) 貸付資本・第一次大戦前／資本輸出(2) 貸付資本・第一次大戦以後／資本輸出(3) 実物資本	
第6節 帝国主義財政の展開	595
財政の動向／経費の膨脹とその要因／財政における矛盾の堆積／地方財政の窮乏	
第7節 農業問題の発生	642
農業恐慌の発生／大戦下の農業／農業生産と農民層の動向／農業問題の発生と農政の社会政策化	
第8節 労働運動と米騒動	704
労働運動／米騒動	

日本資本主義の没落 I

第1章 独占資本の展開	1
第1節 概 観	1
第2節 1920年の反動恐慌と慢性不況	17
1919年の好況／恐慌の勃発と経過／20年恐慌の歴史的意義／恐慌後の不況	
第3節 産業の集中と独占資本の展開	72
重化学工業の發展と独占の進展／繊維工業／金属工業／機械工業／化学工業／電気業／その他の工業	
第4節 貿易入超と為替危機	103
貿易の不振と入超の激化／為替危機とその諸対策	

第5節	戦後金融政策の展開	123
	慢性不況下の金融の動向／銀行合同政策の展開と 銀行集中／恐慌救済策と日本銀行および特殊銀行 ／破綻する植民地銀行	
第6節	財政整理とその破綻	163
	財政の概況／財政整理とその破綻／地方財政問題 の拡大	
第7節	労働運動の激発と労働対策	207
	労働者の状態／サンディカリズムとボルシェヴィ ズム／日本共産党の創立と分裂／無産諸政党の創 立	
第8節	農業問題の展開	247
	慢性不況下の農村経済／農業生産と農業技術の動 向／農民層の分解と地主制の変貌／農民運動の発 展と救済農政の展開	

日本資本主義の没落 II

第2章	全般的危機下の独占資本	305
第1節	概 観	305
第2節	金融恐慌と金解禁	323
	金融恐慌の勃発／金融恐慌の勃発とその影響／金 解禁の実施／貿易の消長	
第3節	昭和恐慌	360
	恐慌の勃発／恐慌の過程／恐慌対策／金輸出再禁 止	
第4節	銀行集中と銀行独占	392
	銀行合同政策の強行／銀行合同の進行と大銀行の 制覇／中小商工業金融の梗塞と救済金融	
第5節	膨脹財政より緊縮財政へ	425
	膨脹財政より緊縮財政へ／膨脹財政とその破綻／ 緊縮財政とその結果／地方財政の窮乏と両税委談 問題	
第6節	独占体制の強化	470
	A 財閥の形成 カルテル活動の発展／カルテ ルと財閥企業／財閥の組織／財閥の特質	
	B 中小企業 独占的支配の強化と中小企業／ 主要部門における中小企業 (1)機械工業 (2)繊維 工業 (3)雑貨工業	

第7節 農村不況の深化とその救済策525

農村不況の深化／不況下の農業生産と農業技術／
農民層分解の変遷と地主制の衰退／農民運動の深
刻化と救済策の進展

第8節 労働者の状態と労働運動574

失業者の激増／資本の攻勢と労働運動の激化／弾
圧下の労働組合・無産政党

日本資本主義の没落 III

第3章 国家独占資本主義化の過程607

第1節 概 観607

第2節 財政膨脹とインフレーション631

緊縮財政から膨脹財政へ／歳出の構造／軍事費と
時局匡救費／歳入の構造変化と公債の累積／地方
財政の動向／公債の累積とインフレーション

第3節 重化学工業の発達672

重化学工業の発達／鉄鋼業／機械器具工業 (1)電
気機械工業 (2)工作機械工業 (3)自動車工業／化
学工業 (1)ソーダ工業 (2)硫酸工業／中小企業
(1)機械工業 (2)雑貨工業

第4節 金融独占資本の強化708

独占の強化／財閥の軍需工業支配／大銀行の動向
／「財閥の転向」／新興コンツェルンの形成 (1)日
産コンツェルン (2)日窒コンツェルン (3)森コン
ツェルン (4)日曹コンツェルン

第5節 貿易の躍進750

貿易の飛躍的増進／外国為替の暴落と低位安定策
／貿易構成の変化／海外市場構成の変化／国際収
支の変化／貿易政策の展開

第6節 農業恐慌と救済政策の展開782

農業恐慌の展開／農業生産と農家の動向／農民運
動と農業政策

第7節 労働者階級と労働運動の分裂821

労働者階級の状態／弾圧と労働運動の深刻化／国
家社会主義運動の擡頭

第8節 全般的危機と国家独占資本主義848

題の提起／国家独占資本主義の本質論 (1)／国
家独占資本主義の本質論 (2)／全般的危機と国家
独占資本主義

日本資本主義の没落 IV

第4章 侵略と軍国主義の崩壊	915
第1節 概 観	915
第2節 戦争財政とインフレーション	937
戦争財政の展開／財政の膨脹と軍事費／歳入の構造—公債と租税／地方財政の動向／戦時金融政策の展開／インフレーションの進行	
第3節 戦時経済の進展と崩壊	987
戦時経済統制の進展／民需生産の崩壊／軍需生産の崩壊	
第4節 大東亜共栄圏の形成と崩壊	1033
大東亜共栄圏の構想と本質／中日事変期における日満華ブロックの展開／大東亜共栄圏の崩壊	
第5節 農業再編成と農業危機	1082
農業生産の衰退と食糧危機／農業統制の強化／農村機構の変貌／農家の状態	
第6節 労働者の状態と国民生活の崩壊	1131
産業別人口構成の変化／中日事変期の労働者の状態／太平洋戦争期の労働者の状態／国民生活の崩壊	
第7節 国家独占資本主義体制の強化	1175
戦時経済統制の体系／全体主義体制の整備／戦時統制経済と国家独占資本主義	

日本資本主義の没落 V

第5章 独占資本の復活——いわゆる経済の民主化	1209
第1節 概 観	1209
第2節 財閥の解体・独占禁止法および 集中排除法の制定	1240
財閥解体についての連合国の意図／指定時の財閥の状況 (1)三井財閥 (2)三菱財閥 (3)住友財閥 (4)安田財閥／財閥解体の経過 (1)持株会社の解体 (2)財閥家族の企業支配力の排除 (3)株式所有の分散 (4)銀行制度の改革／独占禁止法と集中排除法の制定実施	
第3節 労働三法	1312
占領軍の労働政策／労働組合法の成立／労働関係調整法の成立／労働基準法の成立／その他の労働関係諸制度／労働関係法の後退	

第4節 農地改革と農業協同組合—付 漁業の改革……1343

農地改革の発足と第一次農地改革／第二次農地改革／農地改革の実施とその意義／農業協同組合の設立／漁業権改革と漁業協同組合の設立

第5節 占領政策の歴史的意義……1398

問題の所在／農地改革の歴史的意義(1)／農地改革の歴史的意義(2)／農地改革の歴史的意義(3)／農地改革の歴史的意義(4)／占領政策の歴史的意義

日本資本主義の没落 VI

第5章 独占資本の復活——崩壊より再建へ……1487

第1節 概 観……1487

第2節 戦争の経済的帰結……1502

空襲等による破壊／重要物資生産設備能力／領土および資源の喪失／貨幣的資産の状態

第3節 インフレーションの昂進と諸対策……1521

戦後インフレーションの特質／戦後インフレーションの急展開と金融緊急措置令／1946年度の財政とインフレーションの昂進／経済復興とインフレーション

第4節 ドッジ・プランと安定恐慌……1573

経済安定九原則とドッジ・プラン／ドッジ予算の成立とその内容／ドッジ予算とデイス・インフレ政策／安定恐慌の諸相

第5節 産業の復興……1613

生産の復興への模索／傾斜生産方式の採用／生産復興へのメカニズム／あらたな矛盾の拡大

第6節 農業生産の回復……1645

農業生産の回復／収奪の強化／農家経済と農民層の動向／農民運動の昂揚と沈滞

第7節 労働運動の激化と転換……1696

失業者の激増／労働者の窮乏／労働運動の激化と転換／労働組合組織の発展と特色

日本資本主義の没落 VII

第6章	ブームから沈滞へ	1755
第1節	概観	1755
第2節	朝鮮戦争ブームとその反動	1786
	朝鮮戦争ブームとその影響／朝鮮戦争ブーム後の産業合理化／合理化過程の帰結	
第3節	シャウプ税制下の緊縮財政	1820
	シャウプ税制改革／税制改革の効果／膨脹財政から緊縮財政へ／地方財政の状況	
第4節	オーヴァ・ローンの激化と特銀の再編成	1866
	朝鮮戦争と金融政策／オーヴァ・ローンと系列融資／特銀の再編成と長期金融制度の整備／金融政策の転換	
第5節	独占資本の復活と中小企業の窮迫	1902
	生産と資本の集中／資本蓄積の形態／独占資本の復活／中小企業の窮迫	
第6節	労働運動の動揺と再編成	1952
	労働者の状態／反動的労働政策の強化／労働運動の動揺と再編成	
第7節	食糧増産から農業の「近代化」へ	1995
	食糧増産対策の展開／農業技術の発達と農業構造「近代化」の萌芽／農家経済の動向／農政の動揺と農民運動	
第8節	従属化論争	2037
	植民地か帝国主義国か／植民地・従属国論とその変質／帝国主義復活論	

日本資本主義の没落 VIII

第7章	経済の高度成長とその破綻	2065
第1節	概観	2065
第2節	経済の高度成長とその諸要因	2086
	高度成長経済の開幕／設備投資の内容／資本蓄積の機構と政府の政策／産業の資金調達方法／近代化投資の成果／貿易と国際収支	
第3節	独占資本の拡大強化	2167

生産と資本の集中／資本蓄積の形態／金融機関と
系列融資／株式保有と人的結合／コンビネーショ
ンとカルテル

第4節 中小企業の再編成……………2232

経済の高度成長と中小企業／中小企業金融の構造
と資金調達難／高度成長の挫折と中小企業への影
響

第5節 労働力過剰から不足へ……………2270

高度成長による雇用の拡大／労働条件の「改善」
／労働運動の停滞と労働政策の転換

第6節 農業構造改善の破綻……………2310

農業人口の流出と農家経済の変動／農業基本法の
制定／構造改善事業とそのゆきづまり

第7節 ひずみの拡大と「転型」の必然性……………2365

ひずみの拡大／ひずみの内容／「転型」の必然性

あとがき